

授業科目名	パフォーミングアーツ概論	担当教員 深澤 南土実			
必修の区分	選択必修				
単位数	2 単位				
授業の方法	講義				
開講年次	1年 第1クオーター				
講義内容	この授業の目的は、「パフォーミングアーツ」についての視野を広げながら、その諸事例に命的な脈絡を見出すことで、このアーツ（技芸）に関する基礎的な理解を得ることです。授業の内容は、主に舞台芸術のダンスを中心に扱い、身体文化史や現代のテクノロジー（AI・ロボット）、音楽、美術との関わりにも触れながら進めます。ある存在が他の存在を意識して営む技芸を、そのコンテクストとともに紹介・考察してゆきます				
到達目標	ある表現が「パフォーミングアーツ」と言われるに際してのポイントや、諸事例の個別性について説こうとする意欲を持つことができる				
授業計画	01：オリエンテーション 02：身体文化とパフォーミングアーツ 03：テクノロジーと身体（AI・ロボット） 04：西洋を中心とした身体文化とパフォーミングアーツ 1 05：西洋を中心とした身体文化とパフォーミングアーツ 2 06：日本の身体文化とパフォーミングアーツ 1 07：日本の身体文化とパフォーミングアーツ 2 08：パフォーミングアーツと映像 09：パフォーミングアーツにおけるコラボレーション 1 10：パフォーミングアーツにおけるコラボレーション 2 11：アートと身体 12：復習と到達度チェック（授業内試験）				
事前・事後学習	授業毎に指示します（事前・事後学習として週2時間程度）				
テキスト	特に指定しません				
参考文献	鈴木晶編著『バレエとダンスの歴史-欧米劇場舞踊史』（平凡社）、ボナヴァントゥーラ・ルペルティ『日本の舞台芸術における身体—死と生、人形と人工体』（晃洋書房）、徳井直生『創るためのAI：機械と創造性のはてしない物語』（ビー・エヌ・エヌ）ほか、適宜紹介します				
成績評価の基準	平常点 60%：毎回の授業中の様子や発言、およびリフレクションシートの質をもとに判定 平常試験 40%：授業内試験				

履修上の注意 履修要件	初回のオリエンテーション時に授業の進め方や成績評価などの説明をします
実践的教育	該当しない
備考欄	